
ジャンヌ・ダルク

妃宮 咲梗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャンヌ・ダルク

【Nコード】

N6002F

【作者名】

妃宮 咲梗

【あらすじ】

　　齡十七歳の少女という立場で軍を率いイギリスを打ち破り歴史的百年戦争の幕を引いた、フランスの歴史的英雄、またはオルレアンの聖処女ジャンヌ。彼女は火あぶりの十字架に掛けられた時、何を思い死んでいったのだろうか…。神に愛された清純なる信仰者、ジャンヌの死の瞬間の葛藤。

（前書き）

イメージはリュック・ベッソンの映画です。

あのミラ・ジョボビッチとダスティン・ホフマンとの良心との葛藤
シーンに惚れてしまいつい書いてしまった物です。

私には聞こえる。

慈悲深き神の嘆きが。

そして主は仰せられた。

“ 汝こそが我が希望 ” と。

終わり無き戦いを私の手で終わらせよう。

その為なら戦によって家族を奪われた過去の悲しみも糧にして。

今までは美しく咲く野の花を手にしていただけ、

光ある安息の世を目指してこれからは華を捨て銀の剣に持ち替える。

私のこの汚れなき魂と肉体を銀の甲冑に包んで。

戦場はおぞましいまでに惨たらしく、

その光景は私の全感覚に入り込む。

焼ける血の臭いと焦げる肉の臭い。

鈍い音をたててぶつかり合う金属音。

まるで私に与えられし聖なる力を拒むかの様に燃え広がる炎の草原
を馬に乗って駆け抜ける。

栄光ある勝利を信じて。

立ち塞がる高き壁をも私の怒号を轟かせて突破してみせる。

だって私は敬愛なる神に選ばれし者だから。

全能の主なる神に約束された者だから。

恵み深き神に祝福された者だから。

希望に於いて。

平和に於いて。

救世に於いて。
愛に於いて。
光に於いて。

『正義に於いて』

長き戦いを終わらせてこの世に再び神の祝福を。
そして今こそ勝利を告げる旗を天高く掲げよう。

天使達からの賛美に於いて。
私の完全なる清純に於いて――。

…しかしやがて信じていた者から裏切られ、
我が意志も祈りも何者にも届く事がなくなり…、
悲愴と絶望に打ちひしがれし時。
…最早答えを求め天を仰ぐ力もない…。

やがて私の閉じたる眼が朱と紅に染まりし時は、
私が信じ求め続けてきた主の眩いまでの輝きも、
永遠に失われるだろう…。

陽光である神がこの純真なまでの私を無情にも見捨てて事により、
その背を向けた事で地に落とした影の中で私は儚くもひっそりと、
惨めに朽ち果ててゆくのだから。

いや、
神が見捨てると言うよりも寧ろ、
その存在を信じて疑わなかったのに、
本当はそんなものは初めから…いはしなかった事に気付いてしまっ
た時から…。

それは生粋なまでに信じていた者に於いて。
薄情なまでの情けなさに於いて。

確実たる厳格なうえでの現実に於いて。

信仰心を裏切られ冷淡なる虚無感での孤独な死に於いて。

『残酷なまでに臃おぼろさを増す卓越者のもとに』

—— 我が心に於いて ——

（後書き）

この歴史的人物に対する思考は人それぞれだと思いますが、これが私個人印象強い彼女へのイメージですのでどうぞ御了承下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6002f/>

ジャンヌ・ダルク

2010年10月9日01時07分発行